

大人の見方、子どもの見方

わたしの娘の通う保育園に、Aちゃんというとてもやんちゃな男の子がいます。わたしがお迎えに行くと、いつも決まって保育室の中を走り回っています。

「Aちゃんはいつも元気ねえ。」

笑いながら話しかけるわたしを横目で見ながら、Aちゃんのやんちゃぶりに眉をひそめているお母さんたちもいます。

「あんな子がクラスにいと、うちの子がけがさせられないかヒヤヒヤするわ。」

「そうそう、この前うちの子なんか、あの子のせいで泣いて帰ってきたのよ。」

「先生ももっと厳しくしかってくれたらいいのに。」

お迎えの後、園庭の隅にかたまって話しているお母さんたちの話を耳にするうちに、わたしは、「Aちゃんは困った子なんだ」と思うようになっていました。

そんなある日、学習発表会で娘とAちゃんがペアを組むことになったのです。

「ねえ、Aちゃんにいじわるされてない？」

「ママ。Aちゃん、ホントはやさしいんだよ。この前わたしが遊んでてころんだとき、『だいじょうぶか』っていつてくれたもん。」

ケロツとして話す娘にも、わたしは半信半疑でした。

発表会の日、わたしが心配した通り、前日にもBちゃんをめぐってもめ事があったといううわさがお母さんたちの間で流れていました。(娘はだいじょうぶかなあ……)

発表会が始まりました。Aちゃんはどうと、前の子をつついてみたり、横の子とおしゃべりしたり、相変わらず何だかガサガサしています。

いよいよ娘のクラスの出番が来ました。二人が手をつないで歌いながら踊ります。わたしの心配をよそに子どもたちの発表は生き生きとし、娘もAちゃんも本当に楽しそうでした。発表が終わってステージから降りようとするところで、一人の子がつまずいてころんでしまいました。

「あっ」わたしは、思わず声を上げました。その時一人の男の子がたおれた子のところかけよって行きました。Aちゃんです。Aちゃんはその子に手をかしながら何か言葉をかけていました。「ママ。Aちゃん、ホントはやさしいんだよ。」という娘の言葉が、わたしの心の中によみがえってきました。

子どもたちは、昨日ケンカしたかと思うと今日は仲良く遊んでいます。Aちゃんはたしかにやんちゃもしていますが、子どもたちはそれなりに受け入れているように見えます。Aちゃんに「困った子」というレッテルを貼っているのは、わたしたち大人なのかも知れないなあ。ふと、そんな気がしてきました。

そんなことがあってから、わたしのAちゃんを見る目が、少し変わってきたように思います。考えてみたら、わたしたち大人でもいいところもあれば悪いところもあるのは当たり前です。でも以前のわたしは、Aちゃんのことを「困った子」とだんだん否定的に見るようになってしまっていました。

今日はもちつき大会。娘は、力持ちのAちゃんにリードされながら、いっしょにきねを持ってもちをついていました。まわりのみんなも「がんばって」「いいぞAちゃん」と応援しています。みんなの笑顔を見ながら、わたしの心が温かくなってくるのを感じていました。